

平成25年度 事業報告について

平成26年5月24日に開催された理事会・評議員会において「平成25年度事業報告」並びに「平成25年度決算報告」が承認されましたのでお知らせいたします。

なお、本会の事業報告並びに決算書は頁数が相当数に及びますので、その要旨のみをホームページに掲載します。

法人本部事務局に「平成25年度事業報告・決算報告書」がございますので、事前にお申込みをいただければ閲覧していただけます。

平成25年度 事業報告

1. 社会福祉法人緑風会本部

近年リーマン・ショック後の欧州経済危機とその後の世界的規模の経済停滞にあり、日本は東日本大震災および原子力発電所事故と国家的危機からの再生の途上にあります。また日本の社会自体も「少子化」「超高齢化社会」「人口減少」と日本の人口構成も大きく変化し続けています。そのような社会の変化の中、困難な状況が長く続き難しい将来展望もあり、年金・福祉・医療・介護という社会保障全体の在り方が国家を左右する課題として重要視されており、福祉・医療・介護の担い手である公益法人（社会福祉法人）の在り方も検討が進められています。

また、医療法改正、老人保健法から後期高齢者医療制度、それに伴う健康保険法改正及び診療報酬改定と、医療提供体制の再編がなされてきました。五疾病（がん、心筋梗塞、脳卒中、糖尿病、精神病）・五事業（救急医療、災害医療、僻地医療、小児医療、周産期医療）を軸に、医療機関を機能別に再編し、急性期医療から亜急性期、回復期リハ、慢性期医療を経て在宅医療まで切れ目なく医療サービスが効率的に国民に提供されるように体制を整備しようとしたものであります。

緑風会は、厳しいこの経営環境の下において、医療構造改革の進捗、病院界再編の状況、福祉・医療・介護政策の動向を分析し、今後も福祉・医療・介護の全般に対応しうる「地域の相談役」となりうるように研究・努力し、緑風荘病院の建替え事業を実施しています。

緑風荘病院、介護老人保健施設グリーン・ボイス、在宅三施設とも経営環境は厳しく、建築の為の病棟閉鎖による減収、仮設営業の為の建築費、建物の解体費用、入院機能の再編の影響が計数的に厳しく表れていたが、緑風荘病院の新しい建物の主要部分を使用し始めたことにより新しい医療機能として躍動し始めました。

2. 緑風荘病院

1) 緑風荘病院の概要

診療科目： 内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、リウマチ科、
内科（人工透析）、小児科、
外科、消化器外科、皮膚科、泌尿器科、
整形外科、リハビリテーション科

入院： 許可病床 199床 内訳) 一般病床 51床
回復期リハ病棟 40床
医療療養病床 108床

外来： 患者延数1日平均約314名（平成25年度実績）
透析処置ベッド33床

2)

緑風荘病院は、地方的・中間的な一般病院でケア・ミックス医療（一般病床＋療養病床）として、小児科を含む一般診療から、老健、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、訪問介護ステーションと連携した高齢者の医療・介護までできる医療機関として、地域での存在を確立してきました。

緑風荘病院を医療機能という視点からみると、①地域の高次の救急病院の後方支援病院、②一次救急を担う病院、③小児科のある病院、④透析患者の合併症による入院のできる病院、⑤在宅医療・介護を支援する病院、⑥在宅に復帰するためのリハビリテーションの出来る病院として、北多摩地域の急性期病院と在宅医療の連携の橋渡し役並びにその後の在宅医療・介護を支える医療機関としての役割を確立してきてきました。今まで進行する医療機能分化の中で、地域住民に対してより細かくより広範に福祉・医療・介護を同法人内の他施設と連携して提供してきたと言えます。

緑風荘病院は地域社会（東村山・小平・東大和）と共に成長し続け、長い間、この地域での福祉・医療・介護全般に関し、なんでも相談できる親しみやすい医療機関として地域住民を迎え入れきました。

3) 平成25年度：各部署での診療機能や組織の状況。

[医 局]：

内 科：常勤6名、非常勤医師も含め診療内容は充実しています。

外 科：常勤医1名で順天堂大学の協力もあり、手術件数、内視鏡検査、当直体制において好実績を上げています。

整形外科：常勤医1名で杏林大学の協力もあり、診療実績、手術件数において好実績を上げています。

透 析：常勤医師1名入職後4年目。月～土通しで2クール運営。

小 児 科：常勤1名の最少規模での運営。毎日曜日に自主的に休日診療。

[看 護 課]：

平成18年4月診療報酬改定による看護7対1の配置基準新設、夜間勤務条件厳格化により**激しい看護師獲得競争**が繰り広げられており、当院も看護師不足の渦中にあり、中堅職員、夜勤担当者は不足しています。

患者サービス・接遇向上は実現したい重要課題であり、今後も様々な方法による人材確保と院内研修により取り組んでいきます。

[薬 局]:

薬品の効率的購入および定額制病棟でのジェネリック薬品採用を推進している。下半期において薬剤師の退職等により繁忙時期があったが平成 26 年度での人員は確保できました。

[リハビリ]:

資格職を充実させ、施設基準をフル稼働しながら回復期リハビリテーションを順調に稼働させている。早期リハビリから在宅復帰までの流れを充実すべく更に理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の増員を図る予定です。

[透 析]:

一週間通しで一日 2 クール治療を実施し、新建物（A 棟）使用開始後には透析ベッドを 3 ベッド増やし、更に患者増も達成しています。

[レントゲン]:

TV レントゲン機器更新によってデジタル化を図り、画像診断の電子化（PACS）を平成 25 年 10 月 1 日より開始しました。

[検 査]:

BML による外注で業務は安定しており、超音波検査について技師 2 名の他病院での研修をし、消化器及び甲状腺の検査態勢ができた。更に乳腺を充実させる準備をしています。

[事務部門]:

次期コンピューターの更新の為に年度を通して情報を収集している。DPC データ提出加算と電子カルテ導入の準備に入り、更に接遇向上と診療録管理の充実に努めます。

[施設関係]:

建替工事中ではあったが、病院の機能維持のため老朽建物・設備について修繕・改修は行ってします。

病院建替え計画は、平成 23 年 10 月東京都医療施設耐震化緊急事業補助金 315,000,000 円の内示を受け、平成 24 年 2 月独立行政法人福祉・医療機構からの融資も受理され、着工してから今期で 3 年度目となりました。

平成 24 年度下期においては「入院機能の再編」つまり回復期リハビリテーション病棟開始と介護療養の医療療養への転換を実施し、平成 25 年 7 月より新建物（A 棟）の使用開始し、平成 25 年度末においては B 棟建築工事もほぼ完成に近づいています。

東京都福祉保健局より、平成 24 年度の減免実績に対し、平成 26 年 5 月に無料低額診療事業について適合施設としての証明書の発行を受けました。

外来診療患者延べ数

上半期 46,722 人	下半期 47,977 人	外来合計 94,699 人
		対前年比 2,119 人増

入院診療患者延べ数

上半期 32,264 人	下半期 33,972 人	入院合計 66,236 人
		対前年比 4,727 人増

3. 介護老人保健施設グリーン・ボイス

グリーン・ボイス業務実績

項目	年度	年間実績	月平均実績	1日平均実績
入所延数	平成25年度	38,282	3,190	104.9
	平成24年度	35,378	2,948	96.9
	増減	2,904	242	8.0
	率	8.2		
短期延数	平成25年度	3,314	276	9.1
	平成24年度	4,369	364	12.0
	増減	△ 1,055	△ 88	△ 2.9
	率	△ 24.1		
入所・短期計	平成25年度	41,596	3,466	114.0
	平成24年度	39,747	3,312	108.9
	増減	1,849	154	5.1
	率	4.7		
稼働率（118床）	平成25年度	96.6%		
	平成24年度	92.3%		
	増減	4.3%		
入所者数		577	48.1	1.6
退所者数		577	48.1	1.6
通所延数	平成25年度	10,588	882	36.1
	平成24年度	12,115	1,010	41.2
	増減	△ 1,527	△ 128	△ 5.1
	率	△ 12.6		
介護予防	平成25年度	2,537	212	8.7
	平成24年度	2,583	215	8.8
	増減	△ 46	△ 3	△ 0.1
	率	△ 1.8		
通所・介護 予防計	平成25年度	13,125	1,094	44.8
	平成24年度	14,698	1,225	50.0
	増減	△ 1,573	△ 131	△ 5.2
	率	△ 10.7		

- ・平成25年度の入所・短期合計実績は前年比4.7%増（+1,849人）、一日平均利用者数も108.9人/日から114.0人/日へ5.1人増加しました。
とくに前年（平成24年）、近隣地域に大型介護老人保健施設、特別養護老人ホームの開設が相次ぎ92.3%まで落ち込んだ病床稼働率は96.6%まで回復しました。
- ・一方、通所リハビリは介護度の高い利用者（介護度3～5）の中で夏場に体調を崩し入院や施設入所者が相次いだ為、利用中止者が続出した。
また秋以降も復帰出来ない利用者も多く年間利用実績は前年比10.7%減（△1,527人）と大きく落ち込みました。
- ・利用者の状況は高齢化の進行につれて入所・短期・通所ともに認知症の割合と医療必要度が高まるにつれ、施設内事故へのリスクマネジメントも難しくなっています。
- ・建物・設備の維持管理については、経年劣化に加えて猛暑の影響もあり空調設備の故障が相次ぎ、6月～11月の間に約50%の設備の更新工事を緊急にて実施しました。（工事費用 44,940千円）

人員数（入所、短期、通所、リハビリ、事務）期末

所属	職種	勤務形態	平成25年度	平成24年度	増減
	施設長(医師)	常勤	1	1	0.0
		非常勤	0.2	0.2	0.0
	医師	常勤	1	1	0.0
入所・短期	看護職	常勤	10	14	△ 4.0
		非常勤	1.8	1.6	0.2
	介護職	常勤	32	37	△ 5.0
		非常勤	1.4	2	△ 0.6
通所	看護職	常勤	1	1	0.0
		非常勤	0.8	1.6	△ 0.8
	介護職	常勤	4	5	△ 1.0
		非常勤	5.9	4.9	1.0
その他	理学療法士	常勤	3	1	2.0
	作業療法士	常勤	3	3	0.0
	リハビリ助手	非常勤	0	2	△ 2.0
	相談員	常勤	3	2	1.0
	事務員	常勤	2	3	△ 1.0
		非常勤	1	0.9	0.1
合計	常勤	60	68	△ 8.0	
	非常勤	8.5	10	△ 1.5	

・今期も収益環境が厳しいこともあって産休・育休、退職者に対する年度内の補充を一時的に控えたこともあり、常勤・非常勤数は前年期末に比べて大きく減少しています。

4. 在宅サービス部門

1. 東村山南部地域包括支援センター（市委託事業）

項目	平成25年			平成24年			増減	率
	初期	継続	合計	初期	継続	合計		
作成件数	56	1,543	1,599	52	1,365	1,417	182	12.8
委託件数	35	785	820	29	698	727	93	12.8
合計	91	2,328	2,419	81	2,063	2,144	275	12.8
作成給付額(千円)	427	6,801	7,228	396	6,017	6,413	815	12.7
委託給付額(千円)	27	346	373	22	308	330	43	13.0
合計(千円)	454	7,147	7,601	418	6,325	6,743	858	12.7

人員数（期末）

職種	平成25年度	平成24年度	増減
看護師	1	1	0
社会福祉士	1	1	0
主任介護支援専門員	1	1	0
介護支援専門員	2	2	0
合計	5	5	0

・東村山南部地域包括支援センターは高齢者の総合的な生活支援窓口として介護予防・生活相談・権利擁護など様々な活動を行なっています。

・平成25年度は新たに「栄町体操サロン」の立ち上げや市内各地で認知症に関する講演会を定期的で開催するなど介護予防活動を積極的に展開し、こうした地域包括支援センターとしての活動は、年々地域に浸透しており、結果としてケアプラン作成件数の増加に繋がっています。(前年比12.7%増)

2. 緑風荘居宅介護支援事業所

給付管理		平成25年度	平成24年度	増減	率
要介護度1・2	件数	1,754	1,762	△ 8	△ 0.5
要介護度3・4・5	件数	612	696	△ 84	△ 12.1
生活保護	件数	12	19	△ 7	△ 36.8
合計 (単位千円)	件数	2,378	2,477	△ 99	△ 4.0
	金額	37,062	38,605	△ 1,543	△ 4.0

人員数 (期末)

職種	平成25年度	平成24年度	増減
主任介護支援専門員	1	1	0
介護支援専門員	5	5	0
非常勤事務員	0.6	0.6	0

・緑風荘居宅介護支援事業所は多くのグリーン・ボイス通所リハビリ利用者ケアプラン作成に関わっている為、通所リハビリ利用者の減少が居宅実績にも影響し平成25年度はケアプラン作成件数、収益とも前年の4%減に留まりました。

・居宅利用者の動向についても高齢化の進行により緑風荘病院だけでなく地域の医療機関との連携によるケアプラン作成が多くなるなど、年々難しいケースが増えています。

3. 緑風荘訪問介護ステーション

		25年度	24年度	増減	率
身体介護	利用者数	61	76	△ 15	△ 19.7
	回数	524	601	△ 77	△ 12.8
	金額 (千円)	2,078	2,249	△ 171	△ 7.6
生活援助	利用者数	345	318	27	8.5
	回数	2,457	2,381	76	3.2
	金額 (千円)	6,496	6,113	383	6.3
身体生活	利用者数	30	27	3	11.1
	回数	210	214	△ 4	△ 1.9
	金額 (千円)	829	925	△ 96	△ 10.4
予防介護	利用者数	349	300	49	16.3
	回数	1,678	1,463	215	14.7
	金額 (千円)	5,660	4,957	703	14.2
自費サービス	利用者数	41	32	9	28.1
	回数	65	80	△ 15	△ 18.8
	金額 (千円)	142	155	△ 13	△ 8.4
合計	利用者数	826	753	73	9.7
	回数	4,934	4,739	195	4.1
	金額 (千円)	15,205	14,399	806	5.6

・今期は前期に比べて登録ヘルパー数が増えたことによりサービス提供体制が充実。次第に利用者からの依頼も増え、業務実績は利用者数(前年比9.7%減)、

回数（前年比 4.1%増）、金額（前年比 5.6%増）ともに伸びました。

・しかしながら、依然として収益は事業所経費を吸収できない水準にあり、黒字転換にはさらに登録ヘルパーの増員を図り、利用者数の増加を図る必要があります。

結 論

緑風荘病院は、平成 22 年度以降、病棟閉鎖、仮設工事、南病棟解体、入院機能の再編と大きな困難を克服しながら病院機能の再構築をしてきました。これらの計画遂行は病院の入院・外来における患者数動向に大きく影響し、結果として収支における負荷は多大なものとなっています。平成 24 年度期中での介護療養の医療療養への転換、回復期リハ病棟の改修工事の為の一時休止によって入院患者数を大きく減じたが、建替え計画によって実現が見込まれた通りに、入院機能再編による各病棟の一日平均単価の増加と、稼働状況の向上により増収することができました。更に、透析事業の増強、一般病棟の看護体制 13 対 1 取得、回復期リハビリテーション病棟の上位施設基準の取得により、患者 1 日当たりの平均診療単価を更に上げていきたいと考えています。また、老健グリーン・ボイスは、北多摩地域に老健施設や特別養護老人ホーム等が続々と開設したため入所者数が低調になっていましたが、緑風荘病院との連携を密にしながら医療依存度の高い利用者（胃ろう・インシュリンの管理など）を受け入れるなどして稼働状況の改善を図りつつあります。

緑風会全体の組織の結束を固め、各部門間の協力・連携関係を強化し、制度改革の動向について情報を収集し、十分に研究し、積極的に地域社会に貢献していきます。

この一年、病院・施設の利用者並びにご家族の皆様をはじめ、関係者、地域の皆様からの様々なご支援、ご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。